



第12号
平成21年11月30日発行
発行者：特定非営利活動法人
金堂まちなみ保存会
理事長 西村 實
普及啓発委員会

まち探検パートIV

今年度のテーマは「金堂のまちなみはいいなり、心に響くまち探検」で、開催は十二月二十三日です。

学習項目は二点です。
一点目は、補助事業で修理風景された建物の、修理前の写真と修理後の現状を見比べる。併せて金堂まちなみ交流館を隅々まで見学し、ポイント帳に書く。その内容を大学生と一緒に、班でまと



めて発表します。

その学習により、保存地区の修理修景事業による町並み保存や、金堂まちなみ保存交流館の文化的価値を、感性豊かな成長期の子どもの視点で観察し考えることで、五個荘や金堂地区への愛着心が醸成されていくと考えています。

二点目は餅つきを体験します。今は家庭でほとんど行われなくなった餅つきを体験することで、昔の生活を体感し、餅つきの楽しさを実感することができると思っています。

対象者は金堂地区の小学生と、今年度、五個荘小学校の課外授業で金堂地区などを調べていた小学三年生です。今回の企画に、一人でも多くの子供たちが参加されることを願っています。



(福地 真二)

金堂の歴史再発見



「学校日誌に見る戦時下の学童たち」

昭和六年(一九三二)の満州事変から日中戦争・太平洋戦争と続く十五年戦争の時代、金堂の人びとの暮らしも戦時色に覆われ、学童にも軍事教練や勤労奉仕が課せられました。南五個荘小学校では十五年十月から防空訓練が始まり、国民学校となった十六年四月からは勤労奉仕を実施。四月十六日に「放課後石馬寺開墾

作業に従事、初五以上」とあります。

南五個荘幼稚園の十六年十月八日の日誌には「今朝六時半ノニュース太平洋上デ英米ノ艦隊ト戦闘ヲ開始サレタコトニツキ児童ニモ時局重大ナオ話ヲ分り易クキカセタ」とあります。また、戦局が敗色濃い十九年十月二日には「昨日ノテニヤン島大宮島全員戦死ノ報道ニ接シ感慨無量デアルコトヲ幼児ニ知ラセキツト敵討スル様ナ強イ子供ニナルコトヲ誓ッタ」とありますが、児童たちはどの様に感じたのでしょうか。

昭和二十年に入ると、本土決戦の準備が進められ六月に南五個荘国民学校に「学徒隊」が結成。この頃から空襲警報が連日発令され、七月三十日の日誌に「午前六時二十分敵小型機二機ニヨリ銃爆撃ヲ受ク、(中略)小型爆弾ノ直撃ヲ受ケルモ人畜ノ被害ナシ、校

舎全面ニ機銃弾ノ弾痕ヲ認め(中略)被害相当大ナリ。」この時は幸いにも人命に被害はなかったようですが、この金堂上空が戦場となっていたのでした。

「写真」南五個荘幼稚園の日誌(近江商人博物館所蔵)
(林 純)



先進地視察研修や、古い町並み・建物を見学に行く、毎回とても勉強になります。けれど最後にはいつも、改めて金堂の美しさに気がかされて帰ってくる自分があります。いつも見ていると当たり前になってしまっているのです。時々少し金堂から離れてみては、惚れ直すことの繰り返しです。

(堂下 真也)

編集後記

ぶらりまちかど美術館・博物館に

参加して



今年もまた、金堂まちなみ保存会は、近江商人の風土や文化があららちちらに漂う「ぶらりまちかど美術館・博物館」に参画しました。

当日は好天にも恵まれ、市の内外からお越しいただいた観光客等の皆さんを「おもてなしの心」で歓待させていた

できました。

「ぶらり」における今年の保存会活動は、大きく変化しました。と申しますのは、昨年に保存会活動の拠点として、「金堂まちなみ保存交流館」が開館し、今年からイベントや会議をくり返し開催し、その集大成の一つとしての取組みでもあったからです。

交流館では、食事等と共に癒しの空間(建物)を十分満喫していただいたのではないかなと思っております。

日常生活の中にある「白壁と船板塀」生活と観光が融合した取組みを今後も引き続き行ってまいります。

(西村 文夫)

先進地視察研修

金堂まちなみ保存会の先進地研修として、今回は伊勢河崎町と関町の二ヶ所に行ってきました。

伊勢河崎町は昔からの問屋街です。三重県七夕豪雨の時、河崎町の被害は大したことがなかったにも関わらず、国の洪水対策として、町内を流れる勢田川の拡幅が決まり、立ち退き工事が行われました。

これを機に、住民有志が河崎町の歴史文化を残そうと市にかけ合い、後の管理を条件に、酒蔵を商人館にして残したそうです。

現在は平成十一年にNPO法人を立ち上げ、敷地内の建物を店舗として貸出しています。

伝建地区には指定されていませんが、この街を残そうという必死の姿勢は見習うべき

だと感じました。また、宿場である関宿は、伝建地区でもあり、さすがに見事な町並みでした。

資料館では、昭和五九年からの十年ごとに関宿全体の町並みの様子が写真で展示されていて、町の変遷が見て取れて興味深かったです。

今回の研修で河崎町で生まれ育ったおばあちゃんに出会い、話をしました。私はこの街の全てが好きで、新聞雑誌で関連の記事があれば切り抜き、来られる間は足を運ぼうと思っておりますということでした。

町並み保存とはこの気持ちではないでしょうか？金堂も今は若者が減っています。しかし、きちんとしたまち作りをしていけば帰って来るのではないのでしょうか、その為に微力ながら頑張ろうと実感した一日でした。

(塚本 三夫)